

# 第6次中間答申に向けた デジアナ変換の暫定的導入に関する課題整理

---

平成21年4月

(社)日本ケーブルテレビ連盟

# I. 第6次中間答申に向けた検討課題

## 1. 導入のための前提

### (1) 国民的コンセンサスの形成

#### ① 課題

- ・デジアナ変換の実施・終了に関する国民的コンセンサス形成が必須
- ・デジアナ変換終了時に、2011年7月の地上アナログ放送停波時と同様にアナログ受信機器しか保有していない視聴世帯の問題が生じるため、ケーブルテレビ業界単独では対応困難

#### ② 対応案

- ・デジアナ変換の目的の明確化など、デジアナ変換の導入について国民的コンセンサスの形成を要請
- ・デジアナ変換を「暫定的措置」と位置づけ、導入する場合は暫定運用期間・終了時期(年月)の国による明確化及び周知広報を要請

# I. 第6次中間答申に向けた検討課題

## 1. 導入のための前提

### (2) デジタル化の遅延の要因とならないかとの指摘等への対応

#### ① 課題

- ・デジアナ変換はケーブルテレビ事業者の勧めに応じてデジタル契約に移行した視聴世帯に対して理解を得ていく必要がある
- ・デジアナ変換についてはデジタル受信機器の製造メーカー、販売業界等の関係者からも理解を得ていく必要がある

#### ② 対応案

- ・デジアナ変換を導入する場合は、国の要請に基づき暫定的に行うものであること等の趣旨、運用期間・終了時期(年月)について、視聴世帯や製造メーカー、販売業界、消費者団体等の関係団体へ、国による広報等あらゆる手段を講じて周知徹底を図ることを要請

# I. 第6次中間答申に向けた検討課題

## 1. 導入のための前提

### (3) 暫定的な運用期間・導入に当たっての制約

#### ①課題

- ・デジアナ変換は地上アナログ放送の円滑な停止のための暫定的な手段であるが、運用期限を設定しない場合、長期間終了できなくなる懸念がある
- ・デジアナ変換を地上アナログ放送停波前に導入する場合、強電界地域では混信問題から別のchによる再送信とせざるを得ないが、空きchのないケーブルテレビ事業者は簡易STB、簡易チューナーによる対応しか選択肢がない
- ・地上アナログ放送の再送信終了後の空きchを利用できないので、ケーブルテレビ事業者の多チャンネル化やHD化の推進に支障となる懸念がある

#### ②対応案

- ・デジアナ変換の暫定運用期間の設定の必要性・当該期間・終了時期を国があらかじめ明確にして公表することを要請
- ・空き帯域、混信障害等の状況によってはデジアナ変換を導入することが困難なケーブルテレビ事業者も想定され、導入の是非は最終的には各事業者が個別の状況に基づき判断

※ 但し、地上デジタル放送の再送信(トラモジ及びパススルーの両方式、或いはパススルー方式のみ)の実施をデジアナ変換実施の条件とする

# I. 第6次中間答申に向けた検討課題

## 1. 導入のための前提

### (4) 支援措置

#### ① 課題

- ・受益者(視聴者)負担を基本とするが、視聴世帯からの料金徴収方法に有効な手段がないため、デジアナ変換の導入費用の回収が困難なことが予想される
- ・財政状況の苦しい自治体がケーブルテレビ事業を行っている場合はデジアナ変換の設備投資ができない恐れがある

#### ② 対応案

- ・デジアナ変換装置への国の支援(国庫補助、税制支援)を要望
- ・特に財政状況の苦しい自治体への支援が必要

## Ⅱ. デジアナ変換の導入に向けた第6次答申後の検討課題

### 1. 制度的課題

#### (1) 再送信同意の取得

##### ① 課題

- ・現行の再送信には、『信号を加工しない』との条件が盛り込まれており、字幕・文字スーパー、データ放送、画質、音質等の点で同意条件を満たせない可能性
- ・デジアナ変換に対する再送信同意及び同意期間承認ルールの確立

##### ② 対応案

- ・放送事業者、ケーブルテレビ連盟の間で、デジアナ変換の実施、同意期間のあり方、終了時の告知スーパーの表示について合意が得られるように検討
- ・また、デジアナ変換に限定した円滑な同意プロセス等を検討

## Ⅱ. デジアナ変換の導入に向けた第6次答申後の検討課題

### 2. 技術的課題

#### (1) 混信障害

##### ① 課題

・地上アナログ放送停波前からデジアナ変換を開始する場合、空き周波数帯のないケーブルテレビ事業者は、アナログ放送chで(地上アナログ放送の再送信を停止して)デジアナ変換波を再送信せざるを得ないが、強電界地域では地上アナログ放送波による飛び込み混信障害の可能性あり

なお、空き周波数帯があれば別chでデジアナ変換波の再送信が可能であるが、全世帯でのchプリセットの変更が必要

・地上アナログ放送停波後の空き周波数帯を利用するマルチメディア放送等の送信所の近隣の強電界地域では当該電波による飛び込み混信障害の可能性あり

##### ② 対応案

・地上アナログ放送停波前のアナログ放送chでのデジアナ変換波の再送信により、地上アナログ放送波による飛び込み混信障害が起こる地域、事業者の把握

・デジアナ変換波の再送信に対して、地上アナログ放送停波後にマルチメディア放送等の開始により、飛び込み混信障害が起こる地域、事業者の把握(そのためには送信所の場所や出力の情報が必要)

→いずれもデジアナ変換の実施には混信障害の防除策の検討が必要

## Ⅱ. デジアナ変換の導入に向けた第6次答申後の検討課題

### 2. 技術的課題

#### (2) 映像

##### ① 課題

- ・画面表示はレターボックス対応とするか、サイドカットとするか
- ・レターボックスとした場合、見づらいつとの苦情が発生する可能性

##### ② 対応案

- ・レターボックス対応が基本
- ・仮にサイドカットが地上放送事業者から同意が得られた場合でも、画面を拡大するためにHD映像にサイドカット及びズーミング処理を施すなら、アスペクト変換装置の費用負担が発生



## Ⅱ. デジアナ変換の導入に向けた第6次答申後の検討課題

### 2. 技術的課題

#### (3) 字幕・録画等

##### ① 課題

- ・字幕放送(アナログ放送)ができない、地上デジタル放送番組の字幕表示は可能だが、空きchがなければ全世帯で常時表示となる
- ・音声をモノラルにした場合等再送信同意条件との整理が必要
- ・EPG機能(Gガイド)が使用不可となる
- ・コピーガード信号が付加されるためコピーワンスとなる

##### ② 対応案

- ・デジアナ変換の機能上の制約については開始前に視聴世帯への丁寧な説明が必要
- ・字幕スーパーの常時表示の別chを追加した場合は必要なch数が二倍になり、大きな空き帯域が必要

## Ⅱ. デジアナ変換の導入に向けた第6次答申後の検討課題

### 2. 技術的課題

#### (4) ヘッドエンド機器の調達

##### ① 課題

- ・デジアナ変換ヘッドエンド機器は短期間だけで使用されるもので同一時期に一過性の大量の調達となるが、円滑な対応が必要
- ・デジアナ変換機器の保守、廃棄の方法、補修部品の供給対応

##### ② 対応案

- ・デジアナ変換ヘッドエンド機器の機器仕様の策定とともに関係業界との調整が必要

## Ⅱ. デジアナ変換の導入に向けた第6次答申後の検討課題

### 2. 技術的課題

#### (5) 終了告知テロップ

##### ① 課題

- ・デジアナ変換の円滑な終了のため、全国ケーブルテレビ事業者による統一の終了告知テロップの実施の検討

##### ② 対応案

- ・全国のケーブルテレビ事業者によるデジアナ変換終了の統一告知テロップの実施につき、業界内外のコンセンサス形成
- ・再送信同意条件に包含されるよう放送事業者と調整
  - ※上記がクリアにならない場合、コミュニティch・ガイド誌等で周知する等の代替処置を検討

## Ⅱ. デジアナ変換の導入に向けた第6次答申後の検討課題

### 3. 運用上の課題

#### (1) 運用期間

##### ① 課題

- ・デジアナ変換終了時に、2011年7月のアナログ放送停止と同様にアナログ受信機器しか保有していない視聴世帯の問題が生じ、デジアナ変換を長期間終了することができなくなってしまうことが懸念される

##### ② 対応案

- ・暫定運用の期間・終了時期(年月)を国が予め明確に定めることを要請
- ・暫定運用期間・終了時(年月)は、2011年7月より開始し、衛星によるセーフティネット終了時に合わせることで理解を得られやすいが、業界には最大3年間という声がある
- ・国の広報等による運用期間の周知が必要